

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：入船の森保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：石井 千枝子	定員（利用人数）： 40(34名)	
所在地：〒230-0036 横浜市鶴見区浜町1-1-1		
TEL：045-505-3211	ホームページ： https://irifunenomori.com	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2006年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人鶴見乳幼児福祉センター		
職員数	常勤職員：11名 非常勤職員： 7名	
専門職員	保育士 11名 栄養士（内管理栄養士） 1名（0名） 調理員（内調理師） 3名（2名） 事務員 1名 子育て支援員 1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	乳児室(1～2歳児室) 1室 幼児室(3～5歳児室) 1室 調理室 1室 トイレ 2室 事務室 1室 職員休憩室(更衣室) 1室	建物の構造：鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階 建物延床面積：(250.04)m ²

③ 理念・基本方針

【保育理念】

【子どもの人権 人格の尊重 子どもの意思 自立への援助】

『子ども時代を子どもらしく生きる』

温かく見守り、子どもの最善の利益を考慮します。現在最も良く生きられ、将来望ましい未来を作り出せる力を養えるよう適切な援助をして、日々の保育活動を行います。

『子どもたち一人ひとりを大切にする保育』

一人ひとりが快適に過ごせる環境づくりと共に、保育士を含めた周りの環境に自ら関わり、その中でいろいろな経験をしながら遊びを展開していける保育活動を行います。

また、子どもが愛されている・自分は大切な存在（自己肯定）と感じられる保育活動も行います。

【保育方針】

【生命の尊重・心身の健康】

*子ども一人ひとりの心を受容することで、情緒の安定を図り、自己発揮のもとをつくれます。

*『食』環境を充実させ、心と体の基礎をつくります。
食環境としては、①みんなで食べる ②食べ物と体の関わりを知る ③食材の栽培活動 ④調理体験を大切にしています。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

入船の森保育園は、2006年4月に「鶴見乳幼児福祉センター保育園分園入船の森」として開園し、2011年4月に認可保育園入船の森保育園となり運営管理を開始しています。1歳児から5歳児まで定員40名で、34名の園児が通っています。園舎は入船小学校内にあるため、園庭としてはありませんが、小学校校庭を必要に応じて使用させてもらっています。建物は小学校（3階建て鉄筋コンクリート）の1階部分（増築部分軽量鉄骨250.04㎡）を借用しています。また、小学校のイベントに招待されたり、避難訓練に参加したり、ザリガニ釣りに出かけたりしています。近隣にある公園では、コメ作りを行なうなど地域に密着した活動をしています。

【園の特徴】

子ども時代を子どもらしく生きることができるよう、子どもたち一人ひとりを大切にする保育を行なっています。子ども一人ひとりを大切にするため、保護者とともに子育てをすすめることができるよう努めています。園目標として、「いっぱいあそぼう 笑顔の毎日 遊ぶの大好き 食べるの大好き 自分が好き みんなも好き」を掲げ、子どもが子どもらしく生きるための支援を行なっています。多様な国にルーツを持つ子どもが在籍しているため、園も様々な配慮をしているとともに、子どもたちも日常的に多文化に接しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年2月9日（契約日）～ 2024年11月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2018年度）

⑥ 総評

◇特長

1. 体験型食育の実施

コメ作りやヨモギ餅（団子）作り等、年間を通して、子どもたちが食に関心を持つことができるような活動を行なっています。ヨモギが生えている場所を探す、摘む、団子を作る、食べる、などの一貫した食育となっています。また、餅は危ないから食べないのではなく、どうすれば食べられるかを子どもたちが体験できるようにしています。餅は小さく切る、職員の配置を考えるなど、最善の注意を払って餅を食しています。

2. 配慮を要する子ども、保護者への支援

支援が必要なケースでは、家庭支援ファイル（家族構成、保護者の状況、思い、子どもの様子、子どもの気持ち等を時系列で記載したもの）の作成を行ない、子どもの様子、家族の様子を体系的に見ることができるようになっています。職員は子どもを守ると同時に保護者の支援方法を考え実践しています。

子どもを守るため、心身の安定を図り、服、本のリサイクル等多岐にわたる支援を行なっています。また、保護者の不安を解消するため、保護者同士をつないで、話

を聞くことができるようにしたり、保護者が必要としている支援を行なうため、他機関を紹介したりするなどしています。保護者の自尊心を守りながら子どもを守る対応を行なっています。

3. 管理者を中心に進める園運営改善への取組

園では保育の安全、業務の効率化、業務の均一化等を目指し、各クラスのデイリープログラムを昨年度から職員の参加の下で作成しています。職員の動線の確認、不要な動き等を洗い出すとともに、職員の自覚に繋げています。

また、園長、主任は 保育現場に入り実践的保育指導を行なったり、職員が余裕を持って保育が行なえるよう、職員を交代したり増員したりして、クールダウンの時間が持てるようにしています。園長、主任は、それぞれの職員の改善点、問題点を伝え、後日改めて改善されている部分を褒めたり、アドバイスを追加したりすることで、職員の不安を無くするように努めています。また、職員が一人ひとり意欲をもって園運営に参加できるよう、園内研修の充実化、外部研修の受講の機会を設けています。

◇今後期待される点

1. 中・長期計画とそれに連動する単年度の事業計画の作成

運営法人では理念の実現を目指して、5年間の中長期計画を作成しています。経営基盤の充実・強化・安定、財務管理、人事管理、人権の尊重を重点項目に挙げています。しかし、各項目について、数値的目標や実施状況の評価を行なえる様式となっておりません。中・長期計画は、各項目での年度ごとの目標や数値を示し、実施状況の評価を行なって見直すことが必要です。

また、単年度の事業計画は、中・長期計画を反映した園独自の計画で、数値目標や具体的な成果等を設定して、実施状況の評価が行なえる内容になっていることが望まれます。

2. 園の取組についての保護者への周知

園が実際に行なっている取組を、わかりやすい形で保護者に伝えることが期待されます。たとえば、プライバシー保護の取組（他児や職員に見えないように周りを確認しながらオムツ交換を行なう、外部から見えないように遮光ネットを張る、他人のお尻を見ないようにトイレについて行かないなどを子どもに伝える）や、郷土食や国際食、様々なおやつを提供して子どもたちが食を楽しんでいること等の取組があげられます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度は、社）鶴見乳幼児福祉センター入船の森保育園の第三者評価を実施して頂き、また日々私共が取り組んでいる多様性が多い保護者や親子支援等について高く評価して頂き、有難うございました。

定員変更（1歳児～5歳児各クラス8名定員）後の初めての受審でした。今回も多岐にわたる調査項目の一つひとつを振り返りながら、自分たちが頑張っている所、また、改善が必要である所を丁寧に話し合う機会を設けることができました。また、自園の母体である法人運営の見直しも再認識することができました。高く評価して頂いた箇所については 日々自信を持って続けていき、頂いた評価に恥じないように 継続して努力していく謙虚な気持ちも併せ持って取り組んでいきたいと思えます。一方で足り

ない部分、必要を要する項目をご指摘いただき、具体的な改善点に気づくことができました。「特に改善する必要があると思う点」としては、PDCAサイクルの確立であると認識しております。PDCAサイクルを見直していくことで、保育目標の『いっばい遊ぼう 笑顔の毎日 ～Smile and Heart～ 』を更に目指していきたいと思えます。今回に限らず第三者評価を継続的に実施し、自園を外部の組織に鳥瞰して頂き、明日のより良い保育に紡いでいけるよう職員一同精進して参ります。

この度は、有意義な機会を頂き、誠に有難うございました。最後になりますが、お忙しい中、アンケートにご協力して頂いた保護者の皆様に感謝申し上げます。

社会福祉法人鶴見乳幼児福祉センター 入船の森保育園
園長 石井千枝子

- ⑧第三者評価結果
別紙2のとおり